

第22回市民自治推進委員会 まちづくり部会議事録

(敬称略)

開催日時	令和4年12月22日(木) 18時00分～19時20分
開催場所	登別市役所 2階 第1委員会室
出席者	(部会長) 中原 義勝 (副部会長) 山口 賢治 (部会員) 鳴海 文昭、寺山 義民、川人 文男、 川田翔太郎 (庁内委員) 田中 道郎 (庁内委員兼事務局) 大越 智輝 (関係職員) 篠原 知紀、大澤 玲裕、松田 大輔、 大内 拓海 (本庁舎整備推進グループ) (事務局) 佐々木 健、相馬 杏
欠席者	(部会員) 工藤 隆行
議題	(1) 登別市中央地区まちづくり協議会の体制について (2) まちづくり部会で協議する議題について

本年度のまちづくり部会について

- ・新年度体制について、部会長は中原氏を、副部会長は山口氏を部会員の互選により選出した。

(1) 登別市中央地区まちづくり協議会の体制について

(事務局)

- ・本年8月開催の市民自治推進委員会全体会議の中で、本庁舎整備推進グループより、現庁舎の跡地利活用について、今後協議会を立ち上げ進めるといった話があったが、市民自治推進委員会にも正式に協議会の委員の推薦依頼があった。
- ・協議会は本体とワーキンググループの2つの会議体で構成され、(協議会) 本体については、各組織の長もしくはそれに準ずる方の推薦依頼があったため、市民自治推進委員会は仲川委員長を推薦した。
- ・ワーキンググループの委員の選出については、事前に仲川委員長と協議を行った。
- ・現庁舎跡地は現時点では商業目的の利用か福祉目的の利用かなど何も決まっていな状況であることから、市民自治推進委員会の6部会のうち、まちづくり全般について関わる、まちづくり部会からの選出が適当ではないかということになった。
- ・さらに、まちづくり部会のどなたを選出するかについて、本庁舎整備推進グループからは若い世代からの推薦希望があったため、まちづくり部会の川田委員に事務局から事前に打診を行い内諾はいただいている。
- ・しかし、川田委員は市民自治推進委員に就任して今回が初めての会議開催であり、

これまでの経緯等を把握していない中でのワーキンググループへの参加は負担が大きいと思われることから、ワーキンググループの会議内容をまちづくり部会へフィードバックし、その内容について部会員全員で協議することで、川田委員もワーキンググループの会議に参加しやすいかと考えている。

- ・川田委員をワーキンググループの委員に選出することとしてよろしいか？

(部会員)

異議なし

○次に協議会の概要について、本庁舎整備推進グループより説明を行った。

(部会員)

- ・跡地の利活用について、令和5年度中に一定の方向性を出したいとのことであるが、現庁舎がまだある中で決めるのは拙速であると思う。登別市連合町内会の役員からも、跡地の利活用は今後の中央地区のまちづくりを左右する大事な案件であるため、慎重に協議を進めるべきとの意見が出でいた。

(本庁舎整備推進グループ)

- ・令和5年度中に一定の方向性を出したいと考えている理由は、令和8年度に市役所新庁舎の移転が決定しており、移転後もスムーズに跡地活用へ移行できるようにしたいと考えているためである。
- ・中央地区全体を面として捉えて、現庁舎跡地に限らず中央地区全体を活性化できればと考えている。
- ・また、国の補助金等も活用していきたいと考えている。
- ・跡地利活用に係る協議について、期限を定めなければ協議会自体がマンネリ化する可能性もあるため、令和5年度中に一定の方向性を出したいと考えているが、協議会やワーキンググループにおいても議論の余地があれば、令和6年度以降も協議を継続する可能性もある。

(部会員)

- ・市では具体的な計画はあるのか？
- ・市民に意見を聞くばかりではなく、行政としての意見も出しながら協議を進めるべきではないか。
- ・一般市民向けのアンケートは行わないのか。

(本庁舎整備推進グループ)

- ・アンケートの実施は現時点では考えていないが、ワーキンググループからそのような意見があれば検討していきたい。ただし、市民にアンケートを実施する場合、市がある程度具体的な意見を示す必要も出てくるが、その具体内容がひとり歩きするなどの心配もあるので、検討の際はそのことも考慮したい。

(部会員)

- ・協議会での会議結果等のとりまとめは事務局が行うのか？
- ・まちづくりに関する会議は過去にもあったが、補助金を活用するのは行政にしかできないこと。

(本庁舎整備推進グループ)

- ・会議結果等のとりまとめは事務局が行う。
- ・特にワーキンググループは、跡地の利活用の協議において重要な会議体と考えていることから、1ヶ月に1回程度は開催していきたいと考えている。

(部会員)

- ・跡地の利活用はこれからの登別の在り方を決める重要なことなので、広く市民から意見を求めることは良いことであると思うが、どこかで議論の結論を出さなければならないと思う。
- ・自分も市内の団体への説明会に参加したが、出されている意見はその組織の長の個人の意見が多い。説明を受けた内容を会員等へフィードバックしていかなければ市民には中々浸透していかない。

(庁内委員)

- ・市では何か企画する際には、広く市民から意見を聴取するが、一人一人から意見を聞くことは難しい。今回、40の団体から跡地の利活用について意見を聴取できたことは大きな成果であると思う。今後も実施方法を試行錯誤しながら、広く市民からの意見を聞いていきたいと思う。

(本庁舎整備推進グループ)

- ・ワーキンググループで出た意見をまとめ、市公式ウェブサイトに掲載し、市民の方にも協議内容が分かるような形にしたいと考えている。

まちづくり協議会の概要説明・質疑を終了。本庁舎整備推進グループ退席。

(2) まちづくり部会で協議する議題について

(事務局)

- ・これまでまちづくり部会として明確に取り組んだこととしては、登別市連合町内会と協力して、町内会の加入促進のチラシを作成した。
- ・その後、SDGs への取り組みなども議論したが、具体的な取り組みまではできなかった。

(部会員)

- ・市民自治推進委員会は、まちづくり基本条例に基づき活動するものだと理解している。登別市総合計画第3期基本計画の第6章「担いあうまちづくり」に記載されていることが、まちづくり部会で取り組むべきことであると思うが、この中で現在の市の地域課題は何かを今後協議していくべきであると感じる。

(部会長)

- ・町内会活動がまちづくりの基本にあるということから、町内会の加入促進のチラシを作成したが、この件についても、まだできることがあるのではないかと思う。
- ・登別駅周辺地区バリアフリー基本構想について、内容を確認して協議してみてもどうか。

(副部会長)

- ・ポイントを絞って協議しなければならないと思う。
- ・登別市総合計画第3期基本計画の実施計画について、予算や実施状況をグラフ化し、見える化するべき。

(事務局)

- ・市では実施計画については、毎年結果を集約している。
- ・次回の部会で、(登別市総合計画第3期基本計画の)第6章に関わる実施計画の結果を資料としてお示しするので、その中で課題等を見つけて、まちづくり部会として取り組めることを協議していきたい。

次回の部会の開催日程

- 登別市中央地区まちづくり協議会のワーキンググループの会議日程等も考慮して、事務局にて開催日を調整することとなった。